

奄美語徳之島伊仙町方言のモノローグ談話資料：
クガニナラシ（黄金生らし）*

加藤 幹治

（東京外国語大学大学院/日本学術振興会）

A Monologue Narrative Text of the Isen-Tokunoshima Dialect of Amami:
Kuganinarashi (Yielding Gold)

KATO, Kanji

Graduate School, Tokyo University of Foreign Studies / JSPS

This paper provides a monologue narrative text of the Isen-Tokunoshima dialect of the Amami language spoken by a male speaker in his 70's. Japanese kana transcriptions, Japanese translations, morphological analyses, and interlinear glosses are provided. The content is about the folktale called 'Kuganinarashi'. The plot of the story is as follows. A poor man let a beggar stay in his house. He could not prepare a meal for him, but he fed him with rice saved for an offering. He received a mallet from the beggar in return. As he continued to swing the mallet, gold grew in his house. When his greedy brother took the mallet and used it, filth came out instead of gold. Nowadays, people decorate their houses with rice cakes in place of gold imitating this legend.

キーワード: 琉球語, 奄美語, 徳之島方言, 談話資料, 民話

Keywords: Ryukyuan language, Amami language, Tokunoshima dialect, monologue, folklore

1. はじめに
2. テキスト

1. はじめに

1.1. 本稿について

本稿は奄美語徳之島伊仙町方言の独話資料およびその言語学的分析を提示する。

§1 のこれ以降の部分では、談話資料の概要 (§1.2), 伊仙方言の概要 (§1.3), 表記法 (§1.4) について述べる。なお, §1 の記述は概ね加藤 (2022) に基づくが, 一部の記述に改訂を加えた。§2 では, カナ転写 (§2.1), 日本語訳 (§2.2), インターリニアグロス (§2.3) の資料を提示する。

* 本研究は国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」及び JSPS 特別研究員奨励費 JP19J20370 の助成を受けた。



1.2. 談話資料の概要

本稿で提示する資料は、伊藤勝美氏（70代男性、徳之島伊仙町東面縄（東浜）出身）による民話の独話である。聞き取り調査は2018年5月に徳之島伊仙町の伊藤氏宅で行った。録音の総再生時間は7分43秒である。録音後、筆者と伊藤氏が録音を一緒に聴きながら、文脈や筆者が聞き逃した箇所の補足を伊藤氏にご教示頂いた¹。

モノローグは以下のような内容である。

昔ある男がいた。男の生家は金持ちであったが、男の兄が財産を全て奪ってしまったため、男は貧乏だった。ある大晦日の日、男の家に乞食がたずねてきて、一晩泊まらせてほしいという。貧乏だったので客人をもてなすこともできないが、一晩泊めてお供え用の米などを食べさせた。乞食は泊めてもらったお礼として槌を男に与えた。男がその槌を振り続けると、ある日床の間の柱にびっしりと黄金が生っていた。兄がその話を聞きつけて槌を奪っていったが、兄が槌を振っても汚物しか出てこなかった。今ではその故事にあやかって紅白の餅を黄金に見立てて床の間に飾るという。

1.3. 奄美語徳之島伊仙方言の概要

本節では、資料の理解に必要な範囲で伊仙方言の概要を述べる。

1.3.1. 地理と系統

徳之島は、東京から南西約1,300 km、奄美大島から南西約25 kmに位置する縦長の島であり、海岸延長は89.2 kmである。面積は248.02 km²、南北約25 km、東西約12 kmに渡る。主な産業は農業で、人口は23,947人である²。

伊仙町は、徳之島の南部に位置し、中でも本稿の情報提供者である伊藤氏の出生地・居住地である東面縄は伊仙町の東南部に位置する。面積は62.7 km²、人口は6,362人、世帯数は2,885戸である³。図1に伊仙町内の集落の位置を示す。

伊藤氏の居住する行政区東面縄は大宇面縄に属し、図1中で丸く囲われている地域である。伊仙方言では *agaribaa* と呼ばれるが、それに漢字をあてて「東浜 ヒガシハマ」とも呼ばれる（津波2015）。

徳之島方言は言語系統的に日琉語族・琉球語派・北琉球語群・奄美語に属する（中本1984, 上村1997, Pellard 2015）。管見の限り、奄美語内部での他方言との系統的関係に関しては定説がない。徳之島方言の地域的変種群の中での伊仙方言の類型論的位置づけに言及した研究には、北西・東・南の3群のうち南群に属するとするもの（崎村1983）と、北・南の2群のうち南群に属するとするもの（平山1966）がある。ただし、比較言語学的検討に基づいて徳之島方言の地域的変種群の中での言語系統的位置づけに言及した研究は管見の限り存在しない。

¹ 録音と書き起こしにご協力くださった伊藤勝美氏にこの場をお借りして改めてお礼を申し上げる。なお、本文中に誤りが合った場合、それは全て筆者の責任である。

² 面積、人口、海岸延長の情報は鹿児島県ウェブサイト「徳之島の概要」http://www.pref.kagoshima.jp/ac07/pr/shima/gaiyo/tokunoshima/tokunoshima_top.html（最終閲覧日：2022年6月29日）に基づく。

³ 面積、人口、世帯数は伊仙町ウェブサイト（2020年3月23日の記事）「町政情報」<https://www.town.isen.kagoshima.jp/mirai/chosejoho/machinogaiyo/chosejoho.html>（最終閲覧日：2022年6月29日）に基づく。

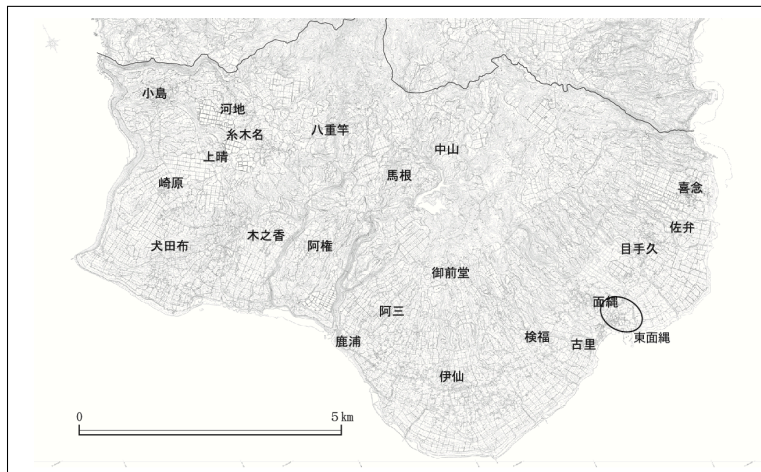


図1 伊仙町の集落の位置（伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）2015: 13
図16「集落の位置」を筆者が加工）

1.3.2. 音韻論

伊仙方言は以下の表に示すような音素を持つ。母音を表1に、半母音を表2に、子音を表3に示す。

表1 母音の目録

前舌	中舌	奥舌	
i	i	u	狭
e		o	半広
ɛ	a		広

母音は必ず1拍を担う。長母音および母音連続は2つの音素の連続として分析する（e.g. [ta:] は /tā/ ではなく /taa/）。したがって、長母音および母音の連続はどちらも2拍を担う。/ɛ/ は奄美語において連母音が変化して出現した比較的新しい音素だが（平山 1966）、語彙における出現頻度が低く、また、長母音として出現する事が多い（e.g. *mɛɛ* 「前」）。祖語の *e は /i/ または /i/ へ、*o は /u/ へ合流したため固有語には /e, o/ があまり現れないが、合流が起きた後に再度母音連続等から発達した /e, o/ も存在する⁴。筆者のフィールド調査によると比較的若い話者（40代など）では /i/ が /i/ または /e/ へ、/ɛ/ が /e/ へ合流しつつある。これが本土方言からの語彙の借用による /e, o/ の増加と組み合わさって、共通語と同じ /a, i, u, e, o/ の5母音体系へ変化しつつある。

⁴ §1.4でも再度述べる。

表2 半母音の目録

j, j [?] , w, w [?]

半母音は母音と異なり拍を担わない。音節の頭に立つ場合 (e.g. /wa/, /ja/) と、音節頭子音と母音の間に立ち拗音拍を形成する場合がある (e.g. /kwa/, /kja/)。声門化半母音は語頭音節の音節頭にしか現れない。したがって、拗音拍も形成しない。

表3 子音の目録

	両唇	歯茎	軟口蓋	(声門)
閉鎖音	p b	t d t [?]	k g k [?]	
摩擦音		s z		h
破擦音		c		
鼻音	m m [?]	n n [?]		
流音		r		

声門化子音 (C[?]) は声門化半母音と同様に語頭にしか立たない。出現位置が限られる理由は、上村 (1992: 16–18) によると、琉球祖語からの改新で、語頭においてのみ声門化が起きたためである (e.g. k[?]umu 「雲」 < *kumo)。/p/ は出現する環境が限られており、借用語 (e.g. *tempura* 「揚げ物」) または、/h/ から始まる語が複合語の後部要素になった時の音交替 (e.g. *utji* 「打つ」 + *hugasi* 「穴を開ける」 > *uppugasi* 「強い動作で穴を開ける」) のみに現れる。これは、日琉祖語の *p が語頭では [h] に変化し語中では消滅したため (e.g. 「南」 *hai* < *pae, 「大きい」 *uu* < *opo), 複合語ではその痕跡が残っているものと考えられる。/r/ は、多くの日琉諸語と同様に、固有語では語中にしか出現しない。

伊仙方言の音節構造テンプレートは (C₁)(G)V₁(V₂)(C₂) である。C₁ には、語頭において全ての子音が、語中において声門化子音 (C[?]) 以外の子音が立つ。G には半母音 /j/, /j[?]/, /w/, /w[?]/ が立つ。V₁ には全ての母音が立つ。C₂ には語中では /p/, /t/, /k/, /s/, /c/, /n/ が立ち、語末では /n/ のみが立つ。C₂ に /n/ 以外の子音が立つ場合、次の音節の C₁ と同一の音素でなければならない。従って、音節末子音に立つのはいわゆる促音と撥音のみである。V₂ に母音が立つ場合は常に母音連続である。可能な母音連続の一覧は以下の通りである (ただし、形態素境界を挟まないもの) : aa, ai, au, ao, ii, ui, uu, ui, ee, oi, oo, ii, εε。

1.3.3. 語順と格

伊仙方言の基本的な語順は S(O)V である。動詞が節の最後に来るという原則が破られることは少ないが、その他の要素の順番は比較的自由である。しかし、談話中では他動詞文であっても S, O, V 全てが揃うことは少ない。

名詞の格は基本的に後置詞 (格助詞) によって標示される。主要項の格配列はいわゆる有標主格型であって、他動詞文と自動詞文の主語が主格 (=ga, =nu/=no/=n) で標示される。例えば、例文 (14) では、自動詞 *iw* 「言う」の主語である *mureε* が主格の =nu で標示されている。ただし、主語が主題である時には主格助詞をとまわず、=ja が後続する。これは、主格助詞と主題助詞は同一ホストに同時に後続することができ

ないためである。この制限のため、主語に主格助詞が見つからないことが多い。

目的語は無標示であって、例えば例文 (15) では他動詞 *kam* 「食べる」の目的語 *juuhi* は無標示である。その他に、有生性の高い名詞（一人称代名詞など）が無標示で現れて主題や属格の名詞として機能する場合がある。例文 (18) では、一人称代名詞の *wakkja* が主題助詞を伴わずに主題として機能している。

1.3.4. 動詞の形態論

伊仙方言では、動詞が接尾辞添加によって屈折する。PC (property concept) 語根に動詞化接辞を接続することで動詞語幹が形成され、動詞と同じような接辞添加を受けることができる。

伊仙方言の動詞の大きな特徴は、一つの屈折形式が複数の統語的機能を果たしうる点である。その特徴を示すため表 4 に動詞・形容詞の屈折形式の一部とその機能をまとめる。

表 4 屈折形式（一部）と統語的機能

形式	資料中でのグロス	機能
-i	INF (終止・連用形)	文終止 (非過去), 節連鎖, 名詞
-ti	SEQ (中止・中止過去形)	文終止 (過去), 節連鎖
-n	ADN (連体形)	文終止, 名詞修飾, 名詞

また、動詞は語根と屈折形式の間に派生接辞を取りうる。派生接辞には、使役・受動などの態に関わるもの、進行・過去などのテンスやアスペクトに関わるもの、語根から別の品詞の語幹を派生するもの、否定・肯定などの極性に関わるものがある。

上述のように一つの屈折形式が文終止の機能とその他の機能を担うため、これらの形式を見ただけではそこで文が終わっているか、あるいはその後節が続くかが分からない。これを判断するには音調や休止、形態統語的環境などを総合的に観察する必要がある。本稿における文境界 (i.e. 例文番号の区切り) は以下のような項目を基準として総合的に判断した。

- (i) =*tjo*, =*saja*, =*bεε*, =*zja*, =*daa* などのある程度まとまった節にのみ接続する助詞 (いわゆる文末助詞) が現れている (e.g. (1))
- (ii) 述部の連体形が名詞として機能しておらず、かつ名詞修飾を行っていない (e.g. (17))
- (iii) 終止・連用形または中止・中止過去形で終わり、その後にある程度の長い休止があるか、下降のイントネーションが現れている (e.g. (7))
- (iv) 最後に現れる名詞句が述語として働いている (e.g. (32))

1.4. 資料の表記と構成

談話における休止、言いかけや共通語の使用等を示すために、いくつか慣例的でない表記を採用した。以下にそれらの表記を示す。

- [...] 約 2 秒以上の休止
- [-] 言いかけ

??? 同定できない形態素
 <> 共通語の使用

伊仙方言の資料を提示するという本稿の目的に照らして、明らかに共通語を使用していると思われる箇所は<>で括った。共通語化しているかどうかの判断は以下のような基準に拠った。

- (i) 動詞と形容詞は伊仙方言と共通語とで屈折・派生の形態法が異なるため、共通語の形態法を行っている箇所は共通語と判断した。
- (ii) 名詞は伊仙方言でも共通語でも屈折しないため、形態法からは共通語化しているかどうかの判断はできない。用言の形態法が明らかに共通語のものである箇所で共通語形の名詞が出てきた場合のみ共通語化していると判断した。
- (iii) 共通語にのみ存在する機能形態素は共通語であると判断した。
- (iv) 伊仙方言と共通語は同じ日琉語族に属することから同形の同根語が多いので、単に共通語に存在する語形だという理由だけでは共通語形だと判断しなかった。
- (v) 通時的な音変化により、日琉祖語の /**e, *i*/ は伊仙方言の /i/ または /i/ に、 /**o, *u*/ は伊仙方言の /u/ にほとんど合流しているため、 /*e, o*/ の現れる語は多くの場合借用語であると判断される⁵。しかし、その借用時期・経路はほとんどの場合不明であり、現代共通語へコードスイッチしているとは言い切れないことから、 /*e, o*/ が出現するからという理由だけでは共通語形だと判断しなかった。

伊仙方言のカナ転写には狩俣 (2021) が提案し加藤 (2021) が修正した、琉球諸語汎用のカナ表記を用いた。巻末の付録 (p.76) にカナ表記と音韻表記の対応表を示した。インターリニアグロスが始まる前の行には表層の音韻表記を示した。この行では、言いさし、休止、共通語からの借用も示し、必要な箇所に適宜音節境界を示した。その後インターリニアグロスを示した。インターリニアグロス中では、言いさしは分析対象としなかった。インターリニアグロスの終わった次の行に §2.2 と同様の日本語訳を示した。最後の行には (h:m:s.ms) という形式でその文の開始時間と終了時間を示した。形態素分析の段では基本的に全ての形態素を分割したが、意味の対応を分かりやすくするため、複合語 (e.g. *aa* 「赤」 + *mutji* 「餅」 : *aamutji* 「赤餅」) や化石化した表現 (e.g. *cikjaran juuhi* 「お供え物の米」) は分析せずに 1 形態素としてグロスを振った。形態素とグロスは一対一対応するようにした。ただし、=*ga*, =*nu*, =*no*, =*n* は主格用法 (NOM) と属格用法 (GEN) に異なるグロスを振った。それ以外で同じ音形に異なるグロスが振られているものは、同音異義形態素である。

2. テキスト

2.1. カナ表記

- (1) ムカシムカシ ント <アルトコロニ> イェエ [...] <マジメナ> ワ [-]
 ナ [-] ワアカ ミッセェガ ウタンブエェダア

⁵ *too* (< **tau* < **taku* < **tako*) 「蛸」のように、方言内部で二次的に生じたと考えられる /*e, o*/ も存在するため、 /*e, o*/ の存在が即座に借用を意味するものではない。

- (2) ウシャットウヤ ハンシャリグア ウヤ 'ウナグン ウヤトゥ クラチュウタンチ
- (3) ウグアシ シ [...] <ソシテ アル> トウキン クンドウヤ ショオグア
ツィ ナタアトゥ ムウル [...] ウン インガヤ ヌンバ ネン ムンナア
ティ° ドゥン ウヤヤ ジダイヤ シマ イツィバンノ カヌィムチ シ ク
ランバ イクツィンバ ムチュタン
- (4) クァ ユタン
- (5) ウシャットウ チョオナンニ キュラア トウリアギィ°ラッティ
- (6) ウシャットウ アマンバ ウラア ヌィィチ イチ
- (7) ジナンニ アマンバ ウツツィキィ°ティ
- (8) ニ[-] ニ[-] ニ[-] ウシャアトゥ シヨオマ ネエダン ウン
- (9) マタ ジナンボオヤ <スゴク マジメナ> クァグァナアティ° アマ ドゥウ
キャアマトゥティンバ アマ ワンゾオティ アマトウ ウッチュムン ク
ラチュウタンチ
- (10) ウグアシカラ ウン クァ インガヌ クァヤ
- (11) チュン トオ イジ ハッテグア ウチ カッシ シ ウン カヌィグア
ヒマチン モロティ ウムグア シ コオタアリ アマ クマ イジ ヌン
キィン ウン ティマ モロユン ティマヤ カ[-] コオユン ムンヤ モ
ロティ ウムグア ムチ チ ウリシ <マイニチ> ヒヌチ[-] ク[-] ツ
[-] クラチュウタンチ

- (12) ウシャットゥ <アル トキ> ショオグア [-] ウン ツグムリヌ ヒイ
 チョオドゥ ナ [-] ウ [-] アン ムン ヤン ムエンキャ ソオジ シ
 ?ナア ヤアヌ ウチカンバ フェエ [-] フェエラマ チュン トオ ウン
 [...] アルイヤ ムレエエ ムレエエチ ユンチョ
- (13) ウルィガ <モノモライ>チョ
- (14) ムレエエヌ シ [-] シッチ スィマンズィガ ?チュウリグア ?ナンヌィン
 トゥマラアチ クィルィチ イチャアトゥ
- (15) ウルィ ?ナア ワアキャマ ?ナアカラドゥ ユウヒィ° カミ ヤアリ
- (16) シカラ ウルィ ウンチュンバ ユウヒィ° ヨオシャン ハズィ ヤズィガ
 ユウヒィ° コオサンバ スィマンチ イチ
- (17) ウシャットゥ ウリ ヌウヌ コオシュ [-] コオシュン ムンバ ネン
- (18) ウシャットゥ カッシ カッシドゥ ワッキヤ ウガシュン ムン ウリ
 トゥマラチャンテン ウリヌィン コオシュン ムンキャヤ ネンドオヤチ
- (19) ウッシ シャアトゥ ク [-] ク [-] クマナン ?チュユウル トゥマラアチ
 モロティカラヤ ウルィシ ?タンドオチ
- (20) ドオカ サアチ ウシャットゥ
- (21) ウンカア アマヌィンバ マタ イジ ソオダン イジ ハナチャンブエエ
 ウン クァアヤ
- (22) ウシャアトゥ ウルィ ウンニン コオシュン ムンバ ネン イキャシ イ
 チャアトゥ

- (23) ?ナンバ ウグァシ イチャンチ ウグァシャアトゥ
- (24) クンドゥヤ コオユン ムンヤ イランチ トゥマラアチ モロティカ ウルィシ ?タンドオチ イチャン
- (25) ウシャットゥ ウグァシカラ ?ナア クンナン ヤントゥ ヌウ アルィヤ
?ニャア ワs[-]⁶ ケガ[-] ヤア[-] ナント[-] ヌッティガレエチュン
ムンヌ ヤントゥ ヌッチガチュン ムニャ ワスルィタスィガヤ アン ム
ンナアティ°
- (26) ウムグァトゥ コオチ トゥマラスィヤ キムチャゲンチ シャンブエエ
- (27) ウシャットゥ クンドヤ マタ ウン インガヌ クァアヤ タムィシチ
ムィニ <ソオダン> シ ニャアチ
- (28) <オソラク ソオダン> シャンテン カラシヤ サン ハズィ ヤスィガチ
イチ オモイガチャナン イジ
- (29) カッシ カッシナアティ° ウン
- (30) ドゥウガヤ ウン ヤング[-] ヤントゥ ヌ[-] トゥ[-] ウン ムントゥ
セエ カディカ ウルィシマ ?タアスィガ キムチャゲン ウィムングァヌ
ヤ チュンムン クムィグァ ツグムリ ヤン ムン ツィキャラン ヌウ
ヒィ°グァ コオサチ
- (31) ?ニャングァ ヤティ コオサンバチ オモティ ヤスィガ <チョット>
ドゥウチョン カミマ ナラムン ?ナア クルィ ショオガツイ ムエエ
カ[-] クムィンバ イリュウリ

⁶ 言いさして母音のない [s] が発音されていたが、カナ表記の対象にならない例外的な音であるため、このように表記した。

- (32) キュウケエエ ヨオヌイカラネエ ショオグアツイドオヤア
- (33) ヌウ カミュ [-] カミュトゥンチュンカ カマランムンヌ ウン チュウガ
ン ソオチュウティ カマチカ ヌツチュン クトゥガチ
- (34) ウラヌィン ネ [-] ネ [-] ネエリユン カラシュン クムィヤ ネンチ
- (35) カエルィチ イチ シャンブエエ
- (36) ウシャアトゥ シヨオ ネエダン マタ
- (37) ウン ウットゥボオヤ ヤア カエッティ アマヌィンバ カッシ カッシ
? ナア ムィン トオ イジャアトゥ カッシ カッシ ヤタンダアチ
- (38) ヌウ シュンチ イキユン ムエエ ワカトゥン クトゥチヨ
- (39) ヤスィガ アン チュヌ キムチャゲンチマ ウムティチ
- (40) シシャ [-] ハナシ シュウティ シャンブエエヤ
- (41) ウシャットゥ [...] カラ トオトオ ウグアシカラ アン ムン マジン
トゥマラサアチ トゥマラチャアトゥ
- (42) シトゥムィティ フェエブエエトゥ ウン チュウマ ウィ[°]ティ マタ
? ナッキヤマ シトゥムィティ フェエブエエトゥ ウィ[°]ティ グァンジツナ
アティ[°]
- (43) ウン ユウルヤ ツィキャラン ユウヒィ[°]ヤ ウン ヤントゥ ウン ナンチ
ア ワスルィタスィガヨ ウルィトゥ ハツィ スィキィ[°]ティヨ ウグアシ
シィ

- (44) ウン ユウルヤ ユ [-] ヤアヌ ユウツィン スィィナン ツィキヤラン
ユウヒィ° ウムグァ スィキィ°ティ シイ
- (45) マタ ファアジュン ウン チュグァニン マ [...] ウン インガ ウェエ°
ティ コオチ ウグァシ トゥマラチャアティ ナアチャ シトゥムィティ
ウイ°ティ
- (46) ツィツィ クルィ ジュウヨッカ ナアティカ ウン ヒイヤ シトゥムィ
ティ ウンブリティ スィィチ ウグァシ イチ
- (47) オボラダアニチ テエゲエ レェエ シ カエティ イジャン
- (48) ウシャットゥ ホオ フウワン ムンナアティ° ??? アア スィマンズィガ
イジャシ ウンブリリチャン トゥズカダタンチャ
- (49) ヤズィガ ショオジキチュウナアティ°
- (50) ヤタン
- (51) ウンチュヌ イチャンガネエネンヌ ヒヌ ウチ マア <トバシタダカ>
イチャンシガダアラ ワカラン
- (52) チョオドゥ ジュウヨッカ ナタアトゥ シトゥムィティ フェエブエエトゥ
イジャアトゥ パアトゥ ??? ウマ ウン トウクン ムェエヌ クマ <
トコノマ>チュンサヤ
- (53) ウン マア トウク [-] トウクン ムェエナン ス ハリヤ アン サアヌ
ハリヤヌ スダ ガンマ [...] クガネヌ サガタンチ
- (54) ウガシャットゥ ウルィヤ クンドゥヤ ウルィシ ウン インガヤ スン
ポイント ??? マタ ムィィユウ <ヒジョオニ> カネムチ ナアティ

- (55) シシャアトゥ ウンカア ムインバ ??? ウルィ カラチ イチャアトゥ
- (56) ムィィガ ??? カラタヤアトゥ スン キッサネッカ ムン [-] ムンブエン
ゾオット サガタンブエェヤ
- (57) シャアトゥ ファアジュン ムィィガ ハンナギィ°ティ マタ タンジ ハン
ナギィ°ティ
- (58) ウルィ マタ シマン チュウガ キチ ナ [-] ?ナンヌィングァ カラチ
ヌィィヤ
- (59) ウシャットゥ ウルィ ネンダアチ イチャン
- (60) カ ウルィヤ シヨオ ネエダン
- (61) ウン サガタムン ニイチャ
- (62) ウン <マネ>シ キィ°ン ユダ チョット クンジ サ [-] クンジ ウンナ
ン キィ°ン ユダヌ サキナン [...] アアムチ シルムチ ツキィ°ティ
- (63) <イッシェンチカク>ヌ ブエェヌ ムングァ シュングァヤ ツキィ°ティ
ウダシ クガネノ カッコ ナアチ ウン マア ウガドゥンチ
- (64) ?ナッキヤマ ス [...] ウンナン アヤカリチャンチ イチャ ウンマア ウ
ガドゥンチ

2.2. 日本語訳

- (1) 昔々、ある所に、真面目な若い青年がいたらしいよ
- (2) そしてね、女親と暮らしていたんだって
- (3) そして正月になって、その男は全く何も無いものだから、自分の親の代は島一番の金持ちで蔵もいくつも持っていた (i.e. その男の親は蔵をいくつも持つほど金持ちだったが、後述の事情により男自身は貧乏だったので、正月の準備ができない)
- (4) (当時はお金があったので) 子は良い
- (5) そしたら、長男に(財産を)全て取り上げられて
- (6) そして「母親もお前が見ろ」と言って
- (7) 次男に母を押し付けた
- (8) どうしようも無かった。うん
- (9) また次男坊はすごく真面目な子で、母を、自分が困っていても母を養って母と一緒に暮らしていたと
- (10) そしたら、その男の子は
- (11) 人のところへ行って畑を耕し、手間賃をもらってそれでものを買ったり、そこかしこに行ってなんとか給料をもらい、食べるものは貰って、ちょっと持ってきて毎日暮らしていたそうさ

- (12) そしてある時、大晦日の日にちょうど家の前などを掃除して、(それが終わったので) その時家の中にも入らないと (いけなかったのだが)、人の所 (に物をもらいにくる) あれはムレエと言うよね
- (13) それが物もらいという意味だよ (i.e. 「ムレエ」というのは「物もらい」という意味だよ)
- (14) 乞食が座って「申し訳ないけど1人ばかり今晚ちょっと泊まらせてくれ」と言う
- (15) その男は「私どもも今からちょうど夕飯を食べるのだ」
- (16) そして男は「その人 (i.e. 乞食) も夕飯を食べたいはずだが、夕飯を食べさせなければならぬ」と言って
- (17) そうすると、あなた、何の食べさせるものもないよ
- (18) そして「かくかくしかじかで、私どもはあなたを泊まらせてもあなたに食べさせるものなどはないのだよ」と言った
- (19) そうすると (乞食は) 「ここに一晚泊めさせてもらえたらそれでいいのだ」と言った
- (20) (男は) 「どうにかしよう」と言って、そして
- (21) それからその子は母の所へ相談しに行き話したらしい
- (22) そして男が「その人に食べさせるものもない、どうしよう」と言ったら

- (23) その時もそう言って、そうしたら
- (24) 今度は「食べるものはいらない」「泊まらせてもらえたらそれでいいのだ」と言った
- (25) そして、今この人に、芋と、名前は忘れてしまったけど何とかという食べ物はあったので
- (26) 「少し食べさせて泊ませようよ、可哀想だから」と言ったそうだ
- (27) そして今度は、その男の子は「試しに兄に相談してみよう」と言って
- (28) 「おそらく相談しても貸しはしないはずだけど」と言って、そう思いながら行って
- (29) 「かくかくしかじかだから、その」
- (30) 「自分が芋とその（名前を忘れた）ものを食べるならそれでもいいけど、かわいそうな老人が独りで来ているから、大晦日だからお供え物の米を食べさせて」
- (31) 「米を少しでも食べさせないと思って、だけど、自分でさえ食べられないし、今は正月前だから米も必要だ」
- (32) 「今日の夜から正月だよ」
- (33) 「何を食べているというのか、食べられないものが、その、人まで連れてきて食べさせたら何ということか (i.e. 自分の米さえ用意出来ない者が他人の分の米まで用意してくれと頼むなんてとんでもない)」と

- (34) 「お前にやる米，貸す米は無い」と言って
- (35) 「帰れ」と言ったそうだ
- (36) そうなるとまた仕方がなかった
- (37) その次男坊は家に帰って，母にも「かくかくしかじかで今兄のところへ行ったらかくかくしかじかだった」と言って
- (38) 「何をするって行く前に分かることだよ (i.e. 兄の冷たい対応は行く前から分かっていたことだよ)」
- (39) 「だけどあの人をかわいそうだとも思った」と
- (40) 話したそうだよ
- (41) そして，とうとう，そして，「あの人 (i.e. 乞食) を一緒に泊めよう」と言って泊まらせたら
- (42) その人 (i.e. 乞食) も朝早々と起きて，また男も朝早々と起きた。元日だから
- (43) その夜はお供え物の米とその芋とその，何と言ったか忘れたけどね，それとお供えものを備えて
- (44) その夜は家の四隅にお供えものの米を少しお供えして
- (45) また早速その人にも少し分けて食べさせて，そうして泊まらせたら，翌日の朝起きて

- (46) 「この槌を十四日になったら、その日、朝これを振って見ろ」そのように言って
- (47) 「ありがとう」と言ってたいそうお礼をして帰っていった
- (48) そして、大きいので、出して振りたくても続かなかったそうだよ
- (49) だけど、正直者なので
- (50) そうだった
- (51) その人の言った通りの日のうち、「飛ばした」などと言ったかどうかわからない (i.e. 正直者なので、十四日間のうち槌を振らなかった日を「飛ばした」などと言ったのだろうか、正直に申告した)
- (52) ちょうど十四日になって朝、早々と出ると、パアッとそこの、床の間の…ここを床の間というよね
- (53) 床の間の柱全部の表面に黄金がさがっていたそうさ
- (54) そしてその男はすぐポーンと???, そして兄より非常に金持ちになって
- (55) そして、兄もそれを借りていったら
- (56) 兄がそれを借りてすぐ汚いものばかりがぞろぞろと(柱に)さがったそうさ
- (57) するとすぐ兄が(槌を)捨てて、布にくるんで捨てて
- (58) そして島の人がそれを聞いて「ちょっと(槌を)貸してみろよ」(と男に言った)

- (59) そして、「その槌は（もう兄に渡してしまったので）無いよ」と言った
- (60) そうしたらその人はしようがなかった
- (61) その（柱に）さがったものを見てね
- (62) その真似をして、木の枝をくくって、その先端に赤餅と白餅をつけて
- (63) 一センチ角くらいにした餅をつけて、そのように黄金の格好にして、そのまま
 拝んでいるそうだ
- (64) 今もそれにあやかりたいと言ってそのまま拝んでいるそうだ

2.3. インターリニアグロス

- (1) *mukasimukasi nnto <arutokoroni> jee [...] <mazimena> wa[-] na[-] waaka
 misseεga utanβεεdaa*

mukasi mukasi nnto aru tokoroni jee mazimena waa-ka misseεga
 昔 昔 FIL ある *** 間 *** 若い-ADJLZ 青年=NOM

wur-tar-n=βεε=daa

いる -PST-PTCP=HSY=SFP

‘昔々、ある所に、真面目な若い青年がいたらしいよ’

(0:00 – 0:00:14.560)

- (2) *usjattuja hansjarigwa uja wunagun ujatū kuratjuutantji*

usjattu=ja hansjari-gwa⁸ uja wunagu=n uja=tu
 そうすると=ASS 祖母-DIM 親 女=GEN 親=COM

kuras-tur-tar-n=tji

暮らす-PROG-PST-PTCP=QUOT

‘そしてね、女親と暮らしていたんだって’

(0:00:14.600 – 0:00:19.690)

⁸ この *hansjarigwa* は言い間違いで、男は母親との二人暮らしだという。

- (3) *ugwasi si [...] <sosite aru> tukin kunduja sjoogwaci nataatu muuru [...] un ingaja nunba nen munnaati dun ujaja zidaija sima icibanno kanimutji si kuranba ikucinba mutjutan*

ugwasi s-ti sosite aru tuki=n kundu=ja sjoogwaci nar-taatu
 そのように する-SEQ そして ある 時=DAT 今度=TOP 正月 なる-ANT

muuru un inga=ja nun=nba neer-n mun=naatii duu=n uja=ja
 全く その 男=TOP 何=ADD ない-PTCP もの=CSL REFL=GEN 親=TOP

zidai=ja sima iciban=no kanimutji s-ti kura=nba ikuci=nba
 時代=TOP 島 一番=GEN 金持ち する-SEQ 蔵=ADD いくつ=ADD

mut-tur-tar-n

持つ-PROG-PST-PTCP

‘そして正月になって、その男は全く何もないものだから、自分の親の代は島一番の金持ちで蔵もいくつも持っていた (i.e. その男の親は蔵をいくつも持つほど金持ちだったが、後述の事情により男自身は貧乏だったので、正月の準備ができない)’

(0:00:20.480 – 0:00:41.620)

- (4) *kwa jutan*

kwa juta-har-n

子供 良い-VBLZ-PTCP

‘(当時はお金があったので) 子は良い’

(0:00:41.740 – 0:00:42.840)

- (5) *usjattu tjoonanni kjuraa turiagiratti*

usjattu tjoonan=ni kjura-a turiagir-ar-ti

そうすると 長男=DAT きれい-ADV LZ 取り上げる-PASS-SEQ

‘そしたら、長男に(財産を)全て取り上げられて’

(0:00:42.980 – 0:00:45.300)

- (6) *usjattu amanba uraa niitji itji*

usjattu ama=nba uraa nj-i=tji iw-ti

そうすると 母=ADD 2SG.NHON.NOM 見る-IMP=QUOT 言う-SEQ

‘そして「母親もお前が見ろ」と言って’

(0:00:45.640 – 0:00:48.260)

(7) *zinanni amanba uccikiti**zinan=ni ama=nba uccikir-ti*

次男=DAT 母=ADD 押し付ける-SEQ

‘次男に母を押し付けた’

(0:00:48.420 – 0:00:51.660)

(8) *ni[-] ni[-] ni[-] usjaatu sijooma needan un**usjaatu sijoo=ma neer-tar-n un*

そうすると 仕様=ADD ない-PST-PTCP うん

‘どうしようも無かった。うん’

(0:00:51.840 – 0:00:55.720)

(9) *mata zinanbooja <sugoku mazimena> kwagwanaati ama duu kjaamatutinba ama wanzooti amatu uttjumun kuratjuutantji**mata zinan-boo=ja sugoku mazimena kwa-gwa=naati ama*

また 次男-DIM=TOP すごく まじめな 子供-DIM=CSL 母

duu kjaamar-tur-ti=nba ama wanzoow-ti ama=tu uttjumun

REFL 困る-PROG-SEQ=ADD 母 養う-SEQ 母=COM 一緒

kuras-tur-tar-n=tji

暮らす-PROG-PST-PTCP=QUOT

‘また次男坊はすごく真面目な子で、母を、自分が困っていても母を養って母と一緒に暮らしていたと’

(0:00:55.780 – 0:01:06.720)

(10) *ugwasikara un kwa inganu kwaja**ugwasi=kara un kwa inga=nu kwa=ja*

そのように=ABL その 子供 男=GEN 子供=TOP

‘そしたら、その男の子は’

(0:01:08.280 – 0:01:10.760)

- (11) *tjun too izi hattegwa utji kassi si un kanigwa himatjin moroti umugwa si kootaari
ama kuma izi nunkin un tima morojun timaja ka[-] koojun mun.ja moroti umugwa
mutji tji urisi <mainitji> hinutji[-] ku[-] cu[-] kuratjuutantji*

tju=n too ik-ti hatte-gwa ut-ti kassi s-ti un kani-gwa
人=GEN 所 行く-SEQ 畑-DIM 耕す-SEQ こう する-SEQ その 金-DIM

himatjin morow-ti umugwa s-ti koow-taari ama kuma
給料 貰う-SEQ ちょっと する-SEQ 買う-JUX あそこ ここ

ik-ti nunkin un tima morow-jur-n tima=ja koow-jur-n
行く-SEQ ちょっと その 手間 貰う-NPST-PTCP 手間=ASS 買う-NPST-PTCP

mun=ja morow-ti umugwa mut-ti k-ti uri=si mainitji
もの=TOP 貰う-SEQ ちょっと 持つ-SEQ 来る-SEQ それ=INS 毎日

kuras-tur-tar-n=tji

暮らす-PROG-PST-PTCP=QUOT

‘人のところへ行って畑を耕し、手間賃をもらってそれでもものを買ったり、そこかしこに行ってなんとか給料をもらい、食べるものは貰って、ちょっと持ってきて毎日暮らしていたそうだ’

(0:01:10.960 – 0:01:38.140)

- (12) *usjattu <aru toki> sjoogwa[-] un cugumurinu hii tjoodu na[-] u[-] an mun jan
menkja soozi si n[?]aa jaanu utjikanba hwee[-] hweerama tjun too un[...] arija
mureε mureεtji juntjo*

usjattu aru toki un cugumuri=nu hii tjoodu an mun jaa=n
そうすると ある 時 うん 大晦日=GEN 日 ちょうど あの もの 家=GEN

mεε-nkja soozi s-ti n[?]aa jaa=nu utji=ka=nba hweer-ar-ma
前-PL 掃除 する-SEQ 今 家=GEN 内=ALL=ADD 入る-NEG-NEG.COND

tju=n too un ari=ja mureε mureε=tji iw-jur-n=tjo

人=GEN 所 うん あれ=TOP 乞食 乞食=QUOT 言う-NPST-PTCP=SFP

‘そしてある時、大晦日の日にちょうど家の前などを掃除して、(それが終わったので)その時家の中にも入らないと(いけなかったのだが)、人の所(に物もらいにくる)あれはムレεと言うよね’

(0:01:38.320 – 0:01:57.360)

- (13) *uriga <monomorai>tjo*

uri=ga monomorai=tjo

それ=NOM 物もらい=SFP

‘それが物もらいという意味だよ(ie. 「ムレε」というのは「物もらい」という意味だよ)’

(0:01:57.560 – 0:01:59.500)

- (14) *mureɛnu si[-] sittji simansiga tʔjuurigwa nʔannin tumaraatji kuiritji itjaatu*
mureɛ=nu sikk-ti sim-ar-n=siga tʔjuuri-gwa nʔannin tumar-as-ti
 乞食=NOM 座る-SEQ 済む-NEG-PTCP=CNC 一人-DIM ちょっと 泊まる-CAUS-SEQ
kuir-i=tji iw-taatu
 くれる-IMP=QUOT 言う-ANT
 ‘乞食が座って「申し訳ないけど1人ばかり今晚ちょっと泊まらせてくれ」と
 言うと’
 (0:01:59.700 – 0:02:07.960)

- (15) *uri nʔaa waakjama nʔaakaradu juuhi kami jaari*
uri nʔaa waakja=ma nʔaa=kara=du juuhi kam-i jar-i
 それ 今 1SG.PL=ADD 今=ABL=FOC 夕飯 食べる-INF COP-INF
 ‘その男は「私どもも今からちょうど夕飯を食べるのだ」’
 (0:02:08.140 – 0:02:11.940)

- (16) *sikara uri untjunba juuhi joosjan hazi jasiga juuhi koosanba simantji itji*
sikara uri un tju=nba juuhi joosjar-n hazi jar-siga juuhi
 そして それ その 人=ADD 夕飯 飢える.ADJ-PTCP はず COP-CNC 夕飯
koos-ar-nba sim-ar-n=tji iw-ti
 食べさせる-NEG-NEG.COND 済む-NEG-PTCP=QUOT 言う-SEQ
 ‘そして男は「その人 (i.e. 乞食) も夕飯を食べたいはずだが、夕飯を食べさせ
 なければならない」と言って’
 (0:02:12.200 – 0:02:19.720)

- (17) *usjattu uri nuunu koosju[-] koosjun munba nen*
usjattu uri nuu=nu koos-jur-n mun=nba neer-n
 そうすると 2SG.HON¹⁰ 何=GEN 食べさせる-NPST-PTCP もの=ADD ない-PTCP
 ‘そうすると、あなた、何の食べさせるものもないよ’
 (0:02:19.840 – 0:02:23.200)

¹⁰ 話を聞いていた筆者への呼びかけである。

- (18) *usjattu kassi kassidu wakkja ugasjun mun uri tumaratjanten urinin koosjun munkjaja nendoojatji*

usjattu kassi kassi=du wakkja ugasjun mun uri
 そうすると こう こう=FOC 1SG.PL そのような もの 2SG.HON

tumar-as-tar-n=ten uri=nin koos-jur-n mun-nkja=ja
 泊まる-CAUS-PST-PTCP=CNC 2SG.HON=DAT 食べさせる-NPST-PTCP もの-PL=TOP

neer-n=doo=ja=tji

ない-PTCP=ASS=ASS=QUOT

‘そして「かくかくしかじかで、私どもはあなたを泊まらせてもあなたに食べさせるものなどはないのだよ」と言った’

(0:02:23.420 – 0:02:32.340)

- (19) *ussi sjaatu ku[-] ku[-] kumanan t?jujuuru tumaraatji morotikaraja urisi t?andootji*

ussi s-taatu kuma=nan t?jujuuru tumar-as-ti morow-ti=kara=ja
 そうして する-ANT ここ=LOC 一晩 泊まる-CAUS-SEQ 貰う-SEQ=ABL=ASS

uri=si t?aar-n=doo=tji

それ=INS 良い-PTCP=ASS=QUOT

‘そうすると（乞食は）「ここに一晩泊めさせてもらえたらそれでいいのだ」と言った’

(0:02 – 0:02:41.020)

- (20) *dooka saatji usjattu*

dooka s-a=tji usjattu

どうか する-INT=QUOT そうすると

‘（男は）「どうかしよう」と言って、そして’

(0:02:41.180 – 0:02:42.920)

- (21) *unkaa amaninba mata izi soodan izi hanatjanbεε un kwaaja*

un=kaa ama=nin=nba mata ik-ti soodan ik-ti hanas-tar-n=bεε
 その=ABL 母=DAT=ADD また 行く-SEQ 相談 行く-SEQ 話す-PST-PTCP=HSY

un kwa=ja

その 子供=TOP

‘それからその子は母の所へ相談しに行き話したらしい’

(0:02:43.140 – 0:02)

- (22) *usjaatu uri unnin koosjun munba nen ikjasi itjaatu*
usjaatu uri un=nin koos-jur-n mun=nba neer-n
 そうすると それ その=DAT 食べさせる-NPST-PTCP もの=ADD ない-PTCP
ikjasi=tji iw-taatu
 どう=QUOT 言う-ANT
 ‘そして男が「その人に食べさせるものもない、どうしよう」と言ったら’
 (0:02:47.100 – 0:02:51.980)
- (23) *n[?]anba ugwasi itjantji ugwasjaatu*
n[?]aa=nba ugwasi iw-tar-n=tji ugwasjaatu
 今=ADD そのように 言う-PST-PTCP=QUOT そしたら
 ‘その時もそう言って、そしたら’
 (0:02:52.160 – 0:02:54.660)
- (24) *kunduja koojun mun.ja irantji tumaraatji morotika urisi t[?]andootji itjan*
kundu=ja koow-jur-n mun=ja ir-ar-n=tji tumar-as-ti
 今度=TOP 食べる-NPST-PTCP もの=TOP 要る-NEG-PTCP=QUOT 泊まる-CAUS-SEQ
morow-ti=ka uri=si t[?]aar-n=doo=tji iw-tar-n
 貰う-SEQ=COND それ=INS 良い-PTCP=ASS=QUOT 言う-PST-PTCP
 ‘今度は「食べるものはいらない」「泊まらせてもらえたらそれでいいのだ」と
 言った’
 (0:02:54.960 – 0:03:00.320)
- (25) *usjattu ugwasikara n[?]aa kunnan jantu nuu arija n[?]jaa was[-] kega[-] jaa[-]*
nanto[-] nuttigareetjun munnu jantu nuttjigatjun munja wasuritasigaja an
munnaati
usjattu ugwasi=kara n[?]aa kun=nan jan=tu nuu ari=ja n[?]jaa
 そうすると そのように=ABL 今 これ=LOC 芋=COM 何 あれ=TOP 今
nuu=tji=garee=tji iw-jur-n mun=nu jan=tu nuu=tji=ga=tji
 何=QUOT=Q=QUOT 言う-NPST-PTCP もの=NOM 芋=COM 何=QUOT=Q=QUOT
iw-jur-n mun=ja wasurir-tar-siga=ja ar-n mun=naati
 言う-NPST-PTCP もの=Q 忘れる-PST-CNC=ASS ある-PTCP もの=CSL
 ‘そして、今この人に、芋と、名前は忘れてしまったけど何とかという食べ物
 はあったので’
 (0:03:00.800 – 0:03:19.740)

- (26) *umugwatu kootji tumarasija kimutjagentji sjanbεε*
umugwa=tu koos-ti tumar-as-i=ja kimutjage-n=tji
 ちょっと=MAN 食べさせる-SEQ 泊まる-CAUS-IMP=ASS 可哀想-PTCP=QUOT
s-tar-n=bεε
 する-PST-PTCP=HSY
 ‘「少し食べさせて泊ませようよ、可哀想だから」と言ったそうだ’
 (0:03:19.840 – 0:03:24.900)
- (27) *usjattu kundoja mata un inganu kwaaja tamisitji miini <soodan> si njaatji*
usjattu kundo=ja mata un inga=nu kwa=ja tamisi=tji mi=ni
 そうすると 今度=TOP また その 男=GEN 子供=TOP 試し=QUOT 兄=DAT
soodan s-ti nj-a=tji
 相談 する-SEQ 見る-INT=QUOT
 ‘そして今度は、その男の子は「試しに兄に相談してみよう」と言って’
 (0:03 – 0:03:34.800)
- (28) *<osoraku soodan> sjanten karasija san hazi jasigatji itji omoigatjanan izi*
osoraku soodan s-tar-n=ten karas-i=ja s-ar-n hazi
 おそらく 相談 する-PST-PTCP=CNC 貸す-INF=TOP する-NEG-PTCP はず
jar-siga=tji iw-ti omow-i=gatjanan ik-ti
 COP-CNC=QUOT 言う-SEQ 思う-INF=ながら 行く-SEQ
 ‘「おそらく相談しても貸しはしないはずだけど」と言って、そう思いながら
 行って’
 (0:03:34.980 – 0:03:40.960)
- (29) *kassi kassinaati un*
kassi kassi=naati un
 こう こう=CSL うん
 ‘「かくかくしかじかだから、その」’
 (0:03:41.164 – 0:03:43.857)

- (30) *duugaja un jangu[-] jantu nu[-] tu[-] un muntusee kadika urisima t²aasiga kimutjagen uimungwanuja tjunmun kumigwa cugumuri jan mun cikjaran juuhigwa koosatji*

duu=ga=ja un jan=tu un mun=tu=see kam-ti=ka
REFL=NOM=ASS その 芋=COM その もの=COM=ASS 食べる-SEQ=COND

uri=si=ma t²a-har-siga kimutjage-n uimun-gwa=nu=ja tjunmun
それ=INS=ADD 良い-VBLZ-CNC 可哀想-PTCP 老人-DIM=NOM=ASS 一人

kumi-gwa cugumuri jar-n mun cikjaran juuhi-gwa koos-as-ti
米-DIM 大晦日 COP-PTCP もの お供え物の米¹²-DIM 食べさせる-CAUS-SEQ

‘「自分が芋とその（名前を忘れた）ものを食べるならそれでもいいけど、かわいそうな老人が独りで来ているから、大晦日だからお供え物の米を食べさせて」’

(0:03:45.217 – 0:04:06.030)

- (31) *n²jangwa jati koosanbatji omoti jasiga <tjotto> duutjon kamima naramun n²aa kuri sjoogaci mεε ka[-] kuminba irjuuri*

n²jangwa jar-ti koos-ar-nba=tji omow-ti jar-siga tjotto
少し COP-SEQ 食べさせる-NEG-NEG.COND=QUOT 思う-SEQ COP-CNC ちょっと

duu=tjon kam-i=ma nar-ar-mun n²aa kuri sjoogaci mεε kumi=nba
REFL=さえ 食べる-INF=ADD なる-NEG-もの 今 これ 正月 前 米=ADD

ir-jur-i
要る-NPST-INF

‘「米を少しでも食べさせないと思って、だけど、自分でさえ食べられないし、今は正月前だから米も必要だ」’

(0:04:06.692 – 0:04:15.946)

- (32) *kjuukεε joonikaraneε sjoogwacidoojaa*
kjuu=kεε jooni=kara=nee sjoogwaci=doo=ja

急=ABL 夜=ABL=のよう 正月=ASS=ASS

‘「今日の夜から正月だよ」’

(0:04:16.921 – 0:04:19.641)

¹² *juuhi* は一般に「夕飯」という意味だが、伊藤氏によれば *cikjaran juuhi* は「お供えものの米」という化石化した表現で、*cikjaran* はどういう意味かわからないという。

- (33) *nuu kamju[-] kamjutuntjunka kamaranmunnu un tjuugan sootjuuti kamatjika nuttjun kutugatji*

nuu kam-jur-tur-n=tji iw-jur-n=ka kam-ar-ar-n
 何 食べる-NPST-PROG-PTCP=QUOT 言う-NPST-PTCP=Q 食べる-POT-NEG-PTCP
mun=nu un tju=gan sook-tur-ti kam-as-ti=ka nuu=tji
 もの=NOM その 人=LIM 連れる-PROG-SEQ 食べる-CAUS-SEQ=COND 何=QUOT
iw-jur-n kutu=ga=tji
 言う-NPST-PTCP こと=Q=QUOT

‘「何を食べているというのか、食べられないものが、その、人まで連れてきて食べさせたら何ということか (i.e. 自分の米さえ用意出来ない者が他人の分の米まで用意してくれと頼むなんてとんでもない)」と’

(0:04:20.467 – 0:04:26.854)

- (34) *uranin ne[-] ne[-] neerjun karasjun kumija nentji*

ura=nin neer-jur-n karas-jur-n kumi=ja neer-n=tji
 2SG.NHON=DAT あげる-NPST-PTCP 貸す-NPST-PTCP 米=TOP ない-PTCP=QUOT

‘「お前にやる米、貸す米は無い」と言って’

(0:04:27.458 – 0:04:31.165)

- (35) *kaeritji itji sjanbεε*

kaer-i=tji iw-ti s-tar-n=bεε
 帰る-IMP=QUOT 言う-SEQ する-PST-PTCP=HSY

‘「帰れ」と言ったそうさ’

(0:04:31.505 – 0:04:33.626)

- (36) *usjaatu sijoo needan mata*

usjattu sijoo neer-tar-n mata
 そうすると 仕様 ない-PST-PTCP また

‘そうなるとまた仕方がなかった’

(0:04:33.976 – 0:04:35.950)

- (37) *un uttubooja jaa kaetti amaninba kassi kassi n[?]aa min too izjaatu kassi kassi jatandaatji*

un uttu-boo=ja jaa kaer-ti ama=nin=nba kassi kassi n[?]aa mi^h=n too
 その 弟-DIM=TOP 家 帰る-SEQ 母=DAT=ADD こう こう 今 兄=GEN 所

ik-taatu kassi kassi jar-tar-n=daa=tji

行く-ANT こう こう COP-PST-PTCP=SFP=QUOT

‘その次男坊は家に帰って、母にも「かくかくしかじかで今兄のところへ行ったらかくかくしかじかだった」と言って’

(0:04:36.330 – 0:04:43.530)

- (38) *nuu sjuntji ikjun mεε wakatun kututjo*

nuu s-jur-n=tji ik-jur-n mεε wakar-tur-n kutu=tjo

何 する-NPST-PTCP=QUOT 行く-NPST-PTCP 前 分かる-PROG-PTCP こと=SFP

‘「何をするって行く前に分かることだよ (i.e. 兄の冷たい対応は行く前から分かっていたことだよ)」’

(0:04:43.935 – 0:04:47.320)

- (39) *jasiga an tjunu kimutjagentjima umutitji*

jar-siga an tju=nu kimutjage-n=tji=ma umuw-ti=tji

COP-CNC あの 人=NOM 可哀想-PTCP=QUOT=ADD 思う-SEQ=QUOT

‘「だけどあの人をかわいそうだとも思った」と’

(0:04:47.456 – 0:04:51.176)

- (40) *sisja[-] hanasi sjuuti sjanβεεja*

hanasi s-tur-ti s-tar-n=bεε=ja

話 する-PROG-SEQ する-PST-PTCP=HSY=ASS

‘話したそうだよ’

(0:04:52.483 – 0:04:54.563)

- (41) *usjattu [...] kara tootoo ugwasi-kara an mun mazin tumarasaatji tumaratjaatu*

usjattu=kara tootoo ugwasi=kara an mun mazin

そうすると=ABL とうとう そのように=ABL あの もの 一緒に

tumar-as-a=tji tumar-as-taatu

泊まる-CAUS-INT=QUOT 泊まる-CAUS-ANT

‘そして、とうとう、そして、「あの人 (i.e. 乞食) を一緒に泊めよう」と言って泊まらせたら’

(0:04:54.729 – 0:05:04.449)

- (42) *situmiti hweebweetu un tjuuma uiti mata n[?]akkjama situmiti hweebweetu uiti gwanzicunaati*

situmiti hweebwee=tu un tju=ma uir-ti mata n[?]akkja=ma situmiti
朝 早々=MAN その人=ADD 起きる-SEQ また 3SG=ADD 朝

hweebwee=tu uir-ti gwanzicu=naati
早々=MAN 起きる-SEQ 元日=CSL

‘その人 (i.e. 乞食) も朝早々と起きて、また男も朝早々と起きた。元日だから’

(0:05:04.793 – 0:05:14.740)

- (43) *un juuruja cikjaran juuhija un jantu un nantjia wasuritasigajo uritu haci sikitijo ugwasi sii*

un juuru=ja cikjaran juuhi=ja un jan=tu un nan=tji=ja
その夜=TOP お供え物の米=TOP その芋=COM その何=QUOT=Q

wasurir-tar-siga=jo uri=tu haci sikir-ti=jo ugwasi s-ti
忘れる-PST-CNC=SFP それ=COM お供え物 供える-SEQ=SFP そのようにする-SEQ

‘その夜はお供え物の米とその芋とその、何と言ったか忘れたけどね、それとお供えものを備えて’

(0:05:15.233 – 0:05:26.073)

- (44) *un juuruja ju[-] jaanu juucin siinan cikjaran juuhi umugwa sikiti sii*

un juuru=ja jaa=nu juuci=n sii=nan cikjaran juuhi umugwa sikir-ti
その夜=TOP 家=GEN 四つ=GEN 角=LOC お供え物の米 ちょっと 供える-SEQ

s-i

する-INF

‘その夜は家の四隅にお供えものの米を少しお供えして’

(0:05:26.849 – 0:05:35.009)

- (45) *mata hwaazjun un tjugwanin ma[...] un inga weeti kootji ugwasi tumaratjaati naatja situmiti uiti*

mata hwaazjun un tju-gwa=nin un inga weer-ti koos-ti
また 早速 その人-DIM=DAT その男 分ける-SEQ 食べさせる-SEQ

ugwasi tumar-as-tar-ti naatja situmiti uir-ti
そのように 泊まる-CAUS-PST-SEQ 翌日 朝 起きる-SEQ

‘また早速その人にも少し分けて食べさせて、そうして泊ませたら、翌日の朝起きて’

(0:05:37.586 – 0:05:44.692)

- (46) *cici kuri zjuujokka naatika un hiija situmiti unbiti nīitji ugwasi itji*
cici kuri zjuujokka nar-ti=ka un hii=ja situmiti unbir-ti
 榵 これ 十四日 なる-SEQ=COND その 日=TOP 朝 振る-SEQ
nj-i=tji ugwasi iw-ti
 見る-IMP=QUOT そのように 言う-SEQ
 ‘「この榵を十四日になったら、その日、朝これを振って見ろ」そのように
 言って¹³’
 (0:05:47.228 – 0:05:56.575)
- (47) *oboradaanitji teegee rεε si kaeti izjan*
oboradaani=tji teegee rεε s-ti kaer-ti ik-tar-n
 ありがとう=QUOT とても 礼 する-SEQ 帰る-SEQ 行く-PST-PTCP
 ‘「ありがとう」と言っていたいそうお礼をして帰っていった’
 (0:05:57.509 – 0:06:00.469)
- (48) *usjattu hoo huuwan munnaati ??? aa simansiga izjasi unbiritjan tuzukadatantjija*
usjattu hoo huu-har-n mun=naati ??? aa sim-ar-n=siga
 そうすると INTJ 大きい-VBLZ-PTCP もの=CSL ??? INTJ 済む-NEG-PTCP=CNC
izjas-i unbir-i=tjar-n tuzuk-ar-datar-n=tji=ja
 出す-INF 振る-INF=DES-PTCP 続く-NEG-NEG.PST-PTCP=QUOT=ASS
 ‘そして、大きいので、出して振りたくても続かなかったそうだよ’
 (0:06:01.441 – 0:06:08.268)
- (49) *jasiga sjoozikitjuunaati*
jar-siga sjoozikitju=naati
 COP-CNC 正直者=CSL
 ‘だけど、正直者なので’
 (0:06:08.564 – 0:06:10.338)
- (50) *jatan*
jar-tar-n
 COP-PST-PTCP
 ‘そうだった’
 (0:06:10.499 – 0:06:11.205)

¹³ 話の流れ上、「十四日になったら」ではなく「十四日の間」が正しいと思われる。

- (51) *untjunu itjanganeenennu hinu utji maa <tobasitadaka> itjansigadaara wakaran*
un tju=nu iw-tar-n=ganee=nu hii=nu utji maa tobasita daka
 その 人=NOM 言う-PST-PTCP=様=GEN 日=GEN 内 INTJ 飛ばした だか

iw-tar-n=siga=daara wakar-ar-n

言う-PST-PTCP=CNC=どうか 分かる-NEG-PTCP

‘その人の言った通りの日のうち、「飛ばした」などと言ったかどうかわからない (i.e. 正直者なので、十四日間のうち槌を振らなかった日を「飛ばした」などと言ったのだろうか、正直に申告した)’

(0:06:12.038 – 0:06:16.745)

- (52) *tjoodu zjuujokka nataatu situmiti hweebweetu izjaatu paatu ??? uma un tukun*
mεεnu kuma <tokonoma>tjunsaja

tjoodu zjuujokka nar-taatu situmiti hweebwee=tu iz-taatu paa=tu

ちょうど 十四日 なる-ANT 朝 早々=MAN 出る-ANT ONM; 光=COM

??? uma un tuku=n mεε=nu kuma tokonoma=tji iw-jur-n=saja

??? そこ その 床=GEN 間=GEN ここ 床の間=QUOT 言う-NPST-PTCP=だよ

‘ちょうど十四日になって朝、早々と出ると、パアッとそこの、床の間の…ここを床の間というよね’

(0:06 – 0:06:25.987)

- (53) *un maa tuku[-] tukun mεεnan nu harja an saanu harjanu suda ganma [...]*
kuganenu sagatantji

un maa tuku=n mεε=nan=nu harja ar-n saa=nu harja=nu suda

その INTJ 床=GEN 間=LOC=GEN 柱 ある-PTCP だけ=GEN 柱=GEN 表面

ganma kugane=nu sagar-tar-n=tji

全て 黄金=NOM 下がる-PST-PTCP=QUOT

‘床の間の柱全部の表面に黄金がさがっていたようだ’

(0:06:26.680 – 0:06:36.399)

- (54) *ugasjattu urija kunduja urisi un ingaja sun ponto ??? mata miijuu <hizjooni>*
kanemutji naati

ugasjattu uri=ja kundu=ja uri=si un inga=ja sun pon=to

そして それ=TOP 今度=TOP それ=INS その 男=TOP すぐ ONM; 動作=MAN

??? mata miijuu hizjoo=ni kanemutji nar-ti

??? また 兄=COMP 非常=DAT 金持ち なる-SEQ

‘そしてその男はすぐポーンと???, そして兄より非常に金持ちになって’

(0:06:37.121 – 0:06:46.135)

- (55) *sisjaatu unkaa minba ??? uri karatji itjaatu*
sisjaatu un=kaa mii=nba ??? uri karas-ti ik-taatu
 そして その=ABL¹⁵ 兄=ADD ??? それ 貸す-SEQ 行く-ANT
 ‘そして、兄もそれを借りていったら’
 (0:06:46.548 – 0:06:50.055)
- (56) *miiga ??? karatajaatu sun kissanekka mun[-] munben zootto sagatanbeεja*
mii=ga ??? karas-taatu sun kissanee-n mun=bεε=n zoo=ito
 兄=NOM ??? 貸す-ANT すぐ 汚い-PTCP もの=ばかり=NOM ぞろぞろ=MAN
sagar-tar-n=bεε=ja
 下がる-PST-PTCP=HSY=ASS
 ‘兄がそれを借りてすぐ汚いものばかりがぞろぞろと（柱に）さがったそうだ’
 (0:06:50.456 – 0:06:56.110)
- (57) *sjaatu hwaazjun miiga hannagiti mata tanzi hannagiti*
sjaatu hwaazjun mii=ga hannagir-ti mata tand-ti hannagir-ti
 そして 早速 兄=NOM 捨てる-SEQ また 畳む-SEQ 捨てる-SEQ
 ‘するとすぐ兄が（槌を）捨てて、布にくるんで捨てて’
 (0:06:56.176 – 0:06:59.190)
- (58) *uri mata siman tjuuga kitji na[-] n²anningwa karatji niija*
uri mata sima=n tju=ga kik-ti n²anningwa karas-ti nj-i=ja
 それ また 島=GEN 人=NOM 聞く-SEQ 少し 貸す-SEQ 見る-IMP=ASS
 ‘そして島の人（が）それを聞いて「ちょっと（槌を）貸してみろよ」（と男に言った）’
 (0:06:59.622 – 0:07:05.066)
- (59) *usjattu uri nendaatji itjan*
usjattu uri neer-n=daa=tji iw-tar-n
 そうすると それ ない-PTCP=SFP=QUOT 言う-PST-PTCP
 ‘そして、「その槌は（もう兄に渡してしまったので）無いよ」と言った’
 (0:07:05.305 – 0:07:07.078)

¹⁵ 音声では *mikka* と言っているように聞こえるが、伊藤氏によれば *unkaa* であるという。

(60) *ka urija sijoo needan**ka uri=ja sijoo neer-tar-n*

COND それ=TOP 仕様 ない-PST-PTCP

‘そうしたらその人はしようがなかった’

(0:07:07.382 – 0:07:08.822)

(61) *un sagatamun niitjija**un sagar-tar-n mun nj-ti=ja*

その 下がる-PST-PTCP もの 見る-SEQ=ASS

‘その（柱に）さがったものを見てね’

(0:07:10.143 – 0:07:12.760)

(62) *un <mane>si kin juda tjotto kunzi sa[-] kunzi unnan kin judanu sakinan [...]
aamutji sirumutji cukiti**un mane s-ti ki=n juda tjotto kunb-ti kunb-ti un=nan*

その 真似 する-SEQ 木=GEN 枝 ちょっと 結ぶ-SEQ 結ぶ-SEQ その=LOC

ki=n juda=nu saki=nan aamutji sirumutji cukir-ti

木=GEN 枝=GEN 先=LOC 赤餅 白餅 付ける-SEQ

‘その真似をして、木の枝をくくって、その先端に赤餅と白餅をつけて’

(0:07:13.354 – 0:07:23.767)

(63) *<issjentjikaku>nu bεεnu mungwa sjungwaja cukiti ugwasi kuganeno kakko naatji
un maa ugaduntji**issjentjikaku=nu bεε=nu mun-gwa s-jur-n-gwa=ja cukir-ti*

一センチ角=GEN くらい=GEN もの-DIM する-NPST-PTCP-DIM=ASS 付ける-SEQ

ugwasi kugane=no kakko nas-ti un maa ugam-tur-n=tji

そのように 黄金=GEN 格好 為す-SEQ その まま 拝む-PROG-PTCP=QUOT

‘一センチ角くらいにした餅をつけて、そのように黄金の格好にして、そのまま拝んでいるようだ’

(0:07:24.429 – 0:07:33.362)

- (64) *n[?]akkjama su[...] unnan ajakaritjantji itjija unmaa ugaduntji*
n[?]aa-kkja=ma un=nan ajakar-i=tjar-n=tji iw-ti=ja un
 今-PL=ADD その=LOC あやかる-INF=DES-PTCP=QUOT 言う-SEQ=ASS その
maa ugam-tur-n=tji
 まま 拝む-PROG-PTCP=QUOT
 ‘今もそれにあやかりたいと言ってそのまま拝んでいるようだ’
 (0:07:34.429 – 0:07:39.709)

略号と記号

-	接辞境界	HSY	hearsay (伝聞)
.	音節境界	IMP	imperative (命令形)
<>	共通語	INF	infinitive (終止・連用形)
=	接語境界	INS	instrumental (具格)
???	同定不可	INT	intentional (意志)
[-]	言いかけ	INTJ	interjection (間投詞)
[...]	休止	JUX	juxtaposition (並列形)
ABL	ablative (奪格)	LIM	limitative (限界格)
ADD	additive (累加)	LOC	locative (処格)
ADJ	adjective (形容詞)	MAN	manner (様態)
ADJLZ	adjectivalizer (形容詞化)	NEG	negative (否定)
ADN	adnominal (終止・連体形)	NHON	non-honorific (非尊敬)
ADV LZ	adverbializer (副詞化)	NOM	nominative (主格)
ALL	allative (方向格)	NPST	non-past (非過去・肯定)
ANT	anterior (進展)	ONM	onomatopoeia (擬態語・擬音語)
ASS	assertive (主張)	PASS	passive (受動)
CAUS	causative (使役)	PL	plural (複数)
CNC	concessive (逆接形)	POT	potential (可能)
COM	comitative (共格)	PROG	progressive (進行)
COMP	comparative (比較格)	PST	past (過去)
COND	conditional (条件)	PTCP	participle (分詞形)
COP	copula (繫辞)	Q	question (疑問)
CSL	causal (原因)	QUOT	quotative (引用)
DAT	dative (与格)	REFL	reflexive (再帰)
DES	desiderative (希望)	SEQ	sequential (中止・過去中止形)
DIM	diminutive (指小辞)	SFP	sentence-final particle (文末助詞)
FIL	filler (フィラー)	SG	singular (単数)
FOC	focus (焦点)	TOP	topic (主題)
GEN	genitive (属格)	VBLZ	verbalizer (動詞化)
HON	honorific (尊敬)		

「ONM;X」と表記した場合、「Xを表すオノマトペ」を意味する。例えば、「ONM;光」は

「光っている様子のオノマトペ」を意味する。

参考文献

- 平山 輝男. 1966. 『琉球方言の総合的研究』. 東京：明治書院.
- 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）. 2015. 『伊仙町の文化遺産：伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』. 鹿児島：伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会. <http://doi.org/10.24484/sitereports.21504>.
- 狩俣 繁久. 2021. 「琉球諸語の発音と書き表し方（暫定版）」. 沖縄言語研究センター定例発表会（2021年1月9日）発表資料.
- 加藤 幹治. 2021. 「徳之島伊仙方言の形容詞と助詞」. 『シマジマのしまくとぅば2：危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』. 沖縄：琉球大学島嶼地域科学研究所. pp.31-58.
- . 2022. 「奄美語徳之島伊仙町方言のモノローグ談話資料—「ハマウリとミーバクマシと天照大神」の話—」. 『アジア・アフリカの言語と言語学』16. pp.373-411.
- 中本 正智. 1984. 「南東方言の概説」. 飯豊 毅一・日野 資純・佐藤 亮一（編）『講座方言学 10 沖縄・奄美地方の方言』. 東京：国書刊行会. pp.1-79.
- Pellard, Thomas. 2015. “The linguistic archaeology of the Ryukyu islands”. In Heinrich, Patrick, Shinsho Miyara, and Michinori Shimoji (eds.), *Handbook of the Ryukyuan Languages: History, Structure, and Use*. Berlin/New York: Mouton de Gruyter. pp.13-37.
- 崎村 弘文. 1983. 「徳之島の方言-3-徳之島町亀津方言の実態」. 『鹿児島大学文科報告第1分冊 哲学・倫理学・心理学・国文学・漢文学篇』17. pp.1-19.
- 津波 高志. 2015. 「伊仙町における村落の空間構造」. 伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会（編）『伊仙町の文化遺産：伊仙町における奄美遺産悉皆調査報告書』. 鹿児島：伊仙町地域文化遺産総合活性化実行委員会. pp.40-54. <http://doi.org/10.24484/sitereports.21504>.
- 上村 幸雄. 1992. 「琉球列島諸方言における喉頭化をめぐる子音の音韻的対立の諸相」. 『琉球列島における音声の収集と研究 I：琉球列島班研究成果報告書』文部省科学研究費重点領域研究「日本語音声」琉球列島班. pp.14-26.
- . 1997. 「琉球列島の言語 0）総説」亀井 孝・河野 六郎・千野 栄一（編）『日本列島の言語』. 東京：三省堂. pp.311-354.

付録

カナ・音韻表記対照表

カナ表記と音韻表記の対照を表5に示す。

表5 カナ・音韻表記対照表

	a	i	u	e	o	i	e		a	i	u	e	o
ア	ア a	イ i	ウ u	エ e	オ o	イ° i	エ ε						
カ	カ ka	キ ki	ク ku	ケ ke	コ ko	キイ° ki	ケエ keε	キャ	キャ kja		キュ kju		キョ kjo
クァ	クァ kwa	クィ kwi		クエ kwe				グァ	グァ gwa	グィ gwi		グエ gwe	
ガ	ガ ga	ギ gi	グ gu	ゲ ge	ゴ go	ギイ° gi	ゲエ geε	ギャ	ギャ gja		ギュ gju		ギョ gjo
サ	サ sa	シ si	ス su	セ se	ソ so	スイ si	セエ seε	シャ	シャ sja		シュ sju		ショ sjo
ザ	ザ za	ジ zi	ズ zu	ゼ ze	ゾ zo	ズイ zi	ゼエ zeε	ジャ	ジャ zja		ジュ zju		ジョ zjo
タ	タ ta	ティ ti	トゥ tu	テ te	ト to	ティ° ti	テエ teε	チャ	チャ tja		チュ tju		チョ tjo
ダ	ダ da	ディ di	ドゥ du	デ de	ド do	ディ° di	デエ deε						
ツァ			ツ cu			ツイ ci							
ナ	ナ na	ニ ni	ヌ nu	ネ ne	ノ no	ヌイ ni	ネエ neε	ニャ	ニャ nja		ニュ nju		ニョ njo
ハ	ハ ha	ヒ hi	フ hu	ヘ he	ホ ho	ヒイ° hi	ヘエ heε	ヒャ	ヒャ hja		ヒュ hju		ヒョ hjo
ファ	ファ hwa	フィ hwi		フエ hwe		フィ° hwi		ブァ	ブァ bwa	ブィ bwi			
バ	バ ba	ビ bi	ブ bu	ベ be	ボ bo	ブイ bi	ブエ beε	ビャ	ビャ bja		ビュ bjju		ビョ bjjo
パ	パ pa	ピ pi	プ pu	ペ pe	ポ po	プイ pi	プエ peε	ピャ	ピャ pja		ピュ pjju		ピョ pjjo
マ	マ ma	ミ mi	ム mu	メ me	モ mo	ミイ mi	ムエ meε	ミャ	ミャ mja		ミュ mjju		ミョ mjjo
ヤ	ヤ ja	イ ji	ユ ju	イエ je	ヨ jo								
ラ	ラ ra	リ ri	ル ru	レ re	ロ ro	ルイ ri	レエ reε	リャ	リャ rja		リュ rju		リョ rjo
ワ	ワ wa		ウ wu			ウイ° wi	ウエ weε						
その他	ン n	ッ 子音を2つ続ける			? (声門化子音) ?								

声門化子音とは $j^?uu$ 「魚」、 $m^?aa$ 「馬」、 $w^?aa$ 「豚」などの語頭に現れる、いわゆる「かたい方の音」(上村 1992: 15) である。